

ヤングケアラー実態調査の結果（中間報告）について

1 回答者数・回答率

	対象者数	回答者数	回答率
区立小学校4～6年生	14,642人	2,281人	15.6%
区立中学校1～3年生	11,044人	1,594人	14.4%
区内在住の高校生世代	15,386人	2,443人	15.9%

2 お世話の有無の状況と国との比較

「家族の中にあなたがお世話をしている人がいますか」の質問に対して「いない」と回答した子どもと「いる」と回答した子どもの人数及び国との比較

	お世話していない子どもの人数(①)	お世話している子どもの人数(②)	お世話している子どもの割合【区】	お世話している子どもの割合【国※】
区立小学校4～6年生	2,028人	253人	<u>11.1%</u>	<u>6.5%</u>
区立中学校1～3年生	1,471人	123人	<u>7.7%</u>	<u>5.7%</u>
区内在住の高校生世代	2,322人	121人	<u>5.0%</u>	<u>4.1%</u>

※ 国は小学校6年生、中学校2年生、全日制高校2年生に対する調査結果

調査を実施した他区においても、お世話している子どもの割合が国の割合よりも大きくなる傾向が見られる。令和2年度の国調査時に比べヤングケアラーの認知度が高まっていることが推測されることの影響等も考慮した分析が必要。

3 お世話の有無や負担感に伴う状況

(1) お世話の有無による生活満足度の比較

「今の生活にどのくらい満足していますか」の質問に対して「あまり満足していない」「満足していない」と回答したこどもの割合

	お世話していないこども(①) のうち「あまり満足していない」「満足していない」と回答したこどもの割合	お世話しているこども(②) のうち「あまり満足していない」「満足していない」と回答したこどもの割合
区立小学校4～6年生	<u>4.4%</u> (90人/2,028人)	<u>9.1%</u> (23人/253人)
区立中学校1～3年生	<u>4.2%</u> (62人/1,471人)	<u>8.9%</u> (11人/123人)
区内在住の高校生世代	<u>6.2%</u> (144人/2,322人)	<u>16.5%</u> (20人/121人)

(2) お世話に負担感のあるこどもの生活満足度

お世話しているこどものうち「お世話をするについてどのようなことを感じていますか」の質問に対して「体がつかれる」「心がつかれる」「もっと遊んだり勉強したりする時間がほしい」と回答したこども(以下「お世話に負担感のあるこども」という。)の人数と「あまり満足していない」「満足していない」と回答したこどもの割合

	お世話に負担感 のあるこどもの人数 (②')	左記のうち「あまり満足していない」「満足していない」と回答したこどもの割合
区立小学校4～6年生	68人 (お世話しているこどもの26.9%)	<u>19.1%</u> (13人/68人)
区立中学校1～3年生	44人 (お世話しているこどもの35.8%)	<u>20.5%</u> (9人/44人)
区内在住の高校生世代	56人 (お世話しているこどもの46.3%)	<u>25.0%</u> (14人/56人)

今の生活に満足していないこどもの割合が「お世話していないこども<お世話しているこども<お世話に負担感のあるこども」の順で大きくなっていることは、支援策を検討する際の重要な視点となる。

4 お世話に負担感のあるこどもの生活状況

「普段の生活などにおいてあてはまるものはありますか」の質問に対してあてはまる選択肢を選択したこどもの割合

選択肢 (あてはまるものをすべて回答)	お世話していないこども (①) のうち 選択肢を選択した割合【A】	お世話に負担感のあるこども (②') のうち 選択肢を選択した割合【B】	【B】 ÷ 【A】
学校を休むことが多い	3.3%	7.7%	2.3倍
学校を遅刻や早退することが多い	4.9%	13.1%	2.7倍
授業内容についていけない	10.6%	22.6%	2.1倍
宿題ができていないことが多い	11.9%	26.2%	2.2倍
学校では一人で過ごすことが多い	6.3%	15.5%	2.4倍
友達と遊んだりおしゃべりしたりする時間が少ない	5.5%	15.5%	2.8倍
自分の時間が取れない	6.3%	22.0%	3.5倍

お世話に負担感のあるこどもが、学校を休む、授業内容についていけない、一人で過ごすことなどを選択した割合が、お世話していないこどもの2倍以上となっている。また、友達と遊ぶ時間や宿題をする時間など自分で自由に使える時間が取れない状況もうかがえる。

5 スケジュール（予定）

今後、調査結果について詳細な分析等を行い、4月中に報告書を公表する予定。併せて、こども向け報告書も作成、公表する。

6 その他

ヤングケアラー実態調査と併せて配付した相談窓口等を掲載した啓発チラシを見た保護者から子ども家庭支援センターに相談があり、関係機関と調整のうえ支援につなげた事例あり。